ドイツにおける日本サブカルチャー受容の変遷
――日本マンガ『新世紀エヴァンゲリオン』における呼称表現の翻訳

Development in Acceptance of Japanese Subculture in Germany:
Translation of Address Terms in "Neon Genesis Evangelion" from Japanese to German

大塚　萌
OTSUKA Moe

要旨　近年海外から日本のサブカルチャーへの注目が高まり、マンガやアニメ作品が次々と輸出・翻訳されている。ドイツでも日本のマンガが数多く翻訳・出版されている。マンガが翻訳されるとき、日本語独特の表現や語彙をどのように翻訳するかが問題となる。本論では呼称表現のドイツ語版の翻訳語選択について、特に日本語語彙流入の変遷を考察する。分析対象として、日本のマンガブームの初期から長期にわたってドイツ語版が翻訳・出版された『新世紀エヴァンゲリオン』を使う。まず、先行研究を参考に、マンガにおける文字テクストの定義・分類を行い、さらにドイツのマンガを取り巻く環境を見る。その上で、家族に対する呼称表現と呼称接尾辞を使った表現のドイツ語翻訳例を調査し、分析する。その結果、年代が下るに従って日本語語彙をそのままドイツ語版の翻訳語として採用する傾向があることが分かった。

1．序論

今や日本マンガは様々な言語に翻訳され、広く読まれている。日本で出版されて一年も経たないうちに翻訳されて海外の本屋に並ぶ。

マンガが海外に輸出され、翻訳されるとき、そこに様々な問題が生じる。日本的な要素をどのように翻訳するのか。どのような語彙を使って翻訳するのか。翻訳語彙の選択には、受容する相手、つまりマンガ読者の日本語語彙・文化的要素の認識の程度が大きな影響を与える。そしてその認知程度はマンガそのものや他媒体の影響を受け変容していく。

そこで本論では、『新世紀エヴァンゲリオン』の文字テクストの中から呼称表現を取り上げ、その翻訳の変遷を分析する。

まず 2 章で先行研究を参考にマンガの中の文字テクストの位置づけと分類を行い、さらにドイツでのマンガ翻訳における日本語語彙の流入を見る。 3 章で分析対象となる『新世紀エヴァンゲリオン』を選択した理由について述べる。その後、 4 章で実際のマンガの文字テクストでの呼称表現について日本語版とドイツ語版文字テクストを比較する。

2．先行研究

2.1. マンガにおける文字テクスト

ドイツ語翻訳版マンガにおける日本語語彙の使用とその変遷を考える前に、マンガにおける文字テクストを考えたい。

当然のようにマンガにおいては、キャラクターや背景などの図像と、吹き出しや四角枠によって囲まれた空間に文字が配置される。この文字の部分を本論では文字テクストと呼

ぶ。文字テクストには、セリフの他に吹き出しや枠に囲まれていないスペースに書き込まれたものや、背景の看板など、オノマトペなどがある。同じ文字テクストでも前述したように様々な配置場所、書かれ方などが存在する[1)]。

それら文字テクストを分類した先行研究から、文字テクストを働きや種類別に分類した後、本論の分析対象となる文字テクストを限定する。

一つ目は、マンガのコーパス研究を行っているウンサーシュッツ（2010）による分類で、「①台詞：吹き出しに現れるもの。②考え事：四角形の箱や、スクリーン・トーンが薄くなっている背景に書いてある内面的な声。自分自身に向けて話している言葉で、他の登場人物には聞こえないもの。③ナレーション：四角形の箱（キャプション）や背景に書いてある、時間や話の進展を読者に向けて語る声。④オノマトペ：背景に書いてある、擬音語など、言語音を表していないもの。⑤背景／テキスト：登場人物にとっての文字テキスト。⑥背景／台詞・考え事：直接背景に書いてある台詞もしくは考え事。⑦コメント：背景に書いてある、登場人物についての情報等を教えてくれる声。⑧題名：タイトルや著作者の名前など。」[2)]の 8 つである。この 8 分類はそれぞれ以下の 3 要素からなっていると考えられるだろう。

Ⅰ　書かれている場所
　(i)　吹き出し
　(ii)　四角の箱及び背景
　(iii)　背景
Ⅱ　対象
　(i)　他者
　(ii)　自分自身
　(iii)　読者
Ⅲ　はたらき
　(i)　言語音
　(ii)　擬音語など
　(iii)　図像の一部としての文字テクスト
　(iv)　タイトル・作者情報

たとえば、「⑥背景／台詞・考え事」は以下の要素から成っている。

Ⅰ　書かれている場所　(iii)背景
Ⅱ　対象　(i)他者あるいは(ii)自分自身
Ⅲ　はたらき　(i)言語音

ウンサーシュッツ（2010）は文字テクストの現れる場所、内容が向けられる対象、はたらきという 3 つの要素を立て、それを組み合わせることによって文字テクストの分類項目を作った。

---

1)　オノマトペは文字テクストでありながら、その多くが手書きで書かれていること、図像と結びついて遠近感や空間の表現などをもたらすことからも、図像的な働きを担うことについてはすでに多くの研究がある。諸岡（2010b）他

2)　ウンサーシュッツ（2010）

ここで特徴的なのは、キャラクターの発声に伴う文字テクストを、「①台詞：吹き出しに現れるもの」として独立させていることである。逆に言えば、文字テクストのほとんどがキャラクターのセリフであることを示す[3)]。

二つ目は、諸岡（2010a）によるマンガ画面の中のことば（本論においては文字テクスト）の研究であり、その分類を試みている[4)]。諸岡による分類は以下の通りである。

（A）吹き出しによって囲われた登場人物の「発話」

（a）「オンの声」（発話した人物がコマの中に描かれている）

（b）「オフの声」（発話した人物がコマの中に描かれていない）

（B）囲い線をもたない「ボイスオーバー」

（a）「心の声、内言語」

（b）「登場人物による語り」

（c）「語り手による語り」

この分類基準は、最初から扱う文字テクストを限定している。諸岡が分類対象としているのは、ウンサーシュッツ（2010）の分類において例えば「④オノマトペ」、「⑤背景／テキスト」や「⑧題名」などのIIIはたらき（i）の言語音に含まれない文字テクストである。「（A）発話」においては、発話したキャラクターという図像と文字テクストを結びつけた分類項目を立てていると考えられる。それに対して「（B）ボイスオーバー」では、「（a）内言語」は物語の内部から、（b）と（c）の「語り」は物語の外部から発されるものであるとする。また、（b）と（c）の「語り」の違いは、発する主体が（b）は作品内の登場人物であるのに対し、（c）はまったくの第三者であることである。

この諸岡（2010a）の文字テクスト分類は、文字テクストを「（A）発話」と「（B）ボイスオーバー」に絞り、さらに表記された文字テクストを発した人物、あるいは発された立場の違いから分類項目を立てている。これは、文字テクストが単独で存在するのではなく、図像と一体になり、文字テクストと図像の複合的な読解を要する表現であるという立場に立った分類であると言えるだろう。対するウンサーシュッツ（2010）はコーパス研究という言語に特化した研究であることから、文字テクストをより広く取り分類対象に含めたと考えられる。

以上 2 つのマンガの文字テクスト分類に関する先行研究を見た。本論では諸岡（2010a）の分類を使用し、その中の「（A）発話」と「（B）ボイスオーバー」の中の「（a）内言語」をその分析対象をする。本論ではその 2 種の文字テクストの中での、ドイツ語翻訳版における呼称表現、特に家族に対する呼称と“-san”や“-kun”などの接尾辞の使用について論じる。

3）　同報告によれば、マンガ作品全 8 作品24巻分のコーパス578880字のうち、71.49％が台詞であり、最多であった。さらに、四角の箱（枠）に囲まれた部分にある文字テクストのうち、キャラクターの内面的な声を表す「②考え事」が次いで多く（13.99％）、その他の文字テクスト種は 5 ％以下であった。マンガの文字テクストのほとんどはマンガの中のキャラクターの発するセリフで構成されているのが数字からも明らかである。

4）　諸岡（2010a）

2.2. ドイツでの日本マンガ翻訳を取り巻く環境

日本マンガのドイツ語翻訳について考察・分析を加える前に、もう一つ考えておくべきことは、ドイツにおけるマンガ受容の状況である。昨今マンガを含む日本のサブカルチャーへの海外からの注目は高まり、「クールジャパン」という言葉が世間的に認知されてきた。経済産業省による「クールジャパン戦略推進事業」のプロジェクトが立ち上げられ、サブカルチャーを輸出する動きが活発となっている。2014年12月に発表された「クールジャパン政策について」という最新の発表では、「“クールジャパン”を体現する日本企業の海外需要開拓・拡大を本格化！」という方策を打ち出し、ローカライズ支援としてアニメやマンガの翻訳に95億円の補助費を出すとしている[5)]。それは輸出先である海外からの需要が高まっていることを意味する。こうした動きの中で、本論の対象であるドイツ語圏の状況はいったいどのようなものであろうか。

ドイツのマンガ出版の状況においては、2014年現在では最新のデータとは言い難いが、2006年に日本貿易振興機構（JETRO）の市場開拓部が「ドイツにおける日本マンガ市場の実態」という報告書を発表している[6)]。これによれば、ドイツのマンガ市場は欧州の中でフランスに次ぐものと認識されている。しかしドイツでは公式の出版統計上「マンガ」というカテゴリーは存在せず、公式統計上の市場規模は発表されていない。出版統計のカテゴリーの中に「マンガ」のあるフランスの2005年のマンガ売り上げ8750万ユーロに対し、やや過大評価の可能性はあるがドイツのマンガ市場は7000万ユーロに達するものとされている。公式統計の数字はないが、市場が急激に拡大したことは確かなようである。

ドイツにおけるマンガ受容は、JETRO（2006）の報告で比較しているフランスと比べた時特異であった。フランスは「バンド・デシネー」と呼ばれる国産コミックス市場が日本マンガを輸入する前から存在していたが、バルツァー（2004）が報告しているように、ドイツのマンガ市場はもともとアメリカ型「コミック・ブック」とフランスの「バンド・デシネー」や北欧の「コミック・アルバム」しか存在せず、日本のマンガが輸入された時も「国産コミックが被害を受けるということはな」かったのである[7)]。

マンガ輸入・翻訳の歴史については、概略して以下の通りとなっている。1982年に『はだしのゲン』（中沢啓治著、『週刊少年ジャンプ』連載）、1989年に『日本経済入門』（石ノ森章太郎著、日本経済新聞社）が翻訳されたが、この2作品は現在大量に翻訳出版されているサブカルチャーとしてのマンガとは異なる文脈で受容された[8)]。『はだしのゲン』は平和教育の目的で、『日本経済入門』はビジネス・経済の参考書として翻訳されたものであった。1992年には『源氏物語』を描いた『あさきゆめみし』（大和和紀著、講談社）が翻訳者・編集者が共に日本の文化に興味を持ち、読者にも日本古典の芸術や文学に興味を持ってもらいたいと翻訳された。

日本マンガという衝撃をドイツに与えたのは、1991年にCarlsenから翻訳・出版された『AKIRA』（大友克洋著、講談社）であった。さらに、1997年翻訳の『ドラゴンボール』（鳥

5） 経済産業省（2014）「クールジャパン政策について」
6） JETRO（2006）「ドイツにおける日本マンガ市場の実態」
7） Balzer, Jens（2004）
8） Jüngst, Heike（2004）

山明著、集英社）と1998年翻訳の『美少女戦士セーラームーン』（武内直子著、講談社）により日本マンガの爆発的ブームが起こった。この 2 作品が出版された1998年がドイツにおける日本マンガブーム最初期となる。『美少女戦士セーラームーン』はドイツのマンガ受容の特徴である、少女マンガ優勢のマンガ市場を作り上げることになった[9)]。一方、『ドラゴンボール』はCarlsenから翻訳・出版された少年層をターゲットとしたアクションマンガであり、大ヒットを記録することになった[10)]。

具体的な内容は後述するが、Jüngst（2004）はマンガの読む方向の変化（従来の左開き・左上から右下に読む形式から、右開き・右上から左下に読む形式へ）や日本語語彙の普及、マンガ的表現の共有などドイツ人マンガ読者の受容変化が起こったことを報告している。このことから、2004年ごろにはすでに日本マンガとその文化が定着期へと入ったと考えられる。それと並んで細谷（2013）ではマンガの爆発的ブームは既に去り、またこれまでのマンガ市場が社会的偏見を強く受けるような方向へと拡大してきたため、市場のさらなる拡大には新しい売り出し方が必要だと報告されている[11)]。つまり。現在ではドイツの日本マンガブームは定着期を超えて、深化の段階に入ったと言える。

日本マンガの翻訳・出版が増えるにつれ起こった変化についてJüngst（2004）によれば、特に本論で論じる日本語彙の流入では、“Konnichiwa”や“Ohayo”といった簡単なあいさつや呼称接尾辞の“-san”や“-chan”といった言葉がドイツ語翻訳版で使用されるようになった。2003年のドイツで出版されたマンガ誌、“Daisuki”で“-san”や“-kun”が使われた例が報告されている。ただし“-san”や“-chan”が単独で使われているのではなく、注が付けられ、説明が付加されている。さらに、Jüngst（2006）では、日本マンガの受容を受けてドイツで活躍するドイツ人マンガ家やマンガファンの間で簡単なあいさつ、呼称接尾辞が普及していることを報告している。

3．分析対象『新世紀エヴァンゲリオン』の位置づけ

3.1.『新世紀エヴァンゲリオン』のあらすじ

本論で分析対象とするのは、『新世紀エヴァンゲリオン』（貞本義行著、GAINAX、カラー原案、角川書店）である。この作品は1995年から1996年までテレビ放映した同名のアニメーション作品のコミカライズ作品である。

物語は2000年に「セカンド・インパクト」と呼ばれる大災害によって世界人口が半減した世界、2015年を舞台としている。主人公・碇シンジは幼いころに別れた父・碇ゲンドウに呼び出され、特務機関NERVの一員となり、巨大人型兵器「エヴァンゲリオン」のパイロットとして謎の敵「使徒」と戦うよう命じられる。シンジは「使徒」との過酷な戦いやNERVの陰謀、自分を捨てた父への複雑な愛憎に苦悩する。

3.2.『新世紀エヴァンゲリオン』という作品

『新世紀エヴァンゲリオン』という作品は、登場人物の内面や心の傷が物語の展開に大

9）JETRO（2006）「ドイツにおける日本マンガ市場の実態」
10）Balzer, Jens（2004）
11）細谷裕史（2013）

きな影響を与えていること、物語が内包する謎とそのテーマ性、そしてそれらを型破りな形で終息に導いたことで話題となった。アニメ作品を見ていたファンの間のみならず、当時の社会問題などと関連付け、議論となった[12)]。アニメ放映から10年以上経った2007年からは『ヱヴァンゲリヲン新劇場版』が放映され、様々な企業とタイアップやコラボを行ったり、地方都市でイベントを開催したりするなどいまだにその根強い人気は続いている[13)]。

コミカライズ版のマンガ版『新世紀エヴァンゲリオン』も驚異的な売り上げを見せており、2014年11月に発売された14巻のプレミアム限定盤は週間30. 7 万部という売り上げを記録し、12月 1 日付週間“本”売上ランキングコミック部門で 1 位となった[14)]。

日本で大きな話題となりマンガも驚異的な売り上げを誇った『新世紀エヴァンゲリオン』は、ドイツ語版 1 巻が1999年に翻訳・出版されている[15)]。日本とドイツの出版年の対応表を以下に挙げる。

表 1　『新世紀エヴァンゲリオン』の出版年

巻	ドイツ（年）	日本（年）
1	1999	1995
廉価版	2011	
2	1999	1996
3	1999	1996
4	1999	1997
5	2000	1999
6	2001	2000
7	2002	2001
8	2003	2002
9	2005	2004
10	2006	2006
11	2008	2007
12	2011	2010
13	2013	2012

1999年から翻訳・出版され始めた『新世紀エヴァンゲリオン』は、ドイツのマンガ翻訳・

12)　樫村（2002）で概説されている。
13)　日本経済新聞（2012）「世代を超えた人気　エヴァンゲリオン現象の不思議　日経エンタテインメント！」
14)　ORICONSTYLE（2014）「【オリコン】エヴァ、最終巻で有終の美 4 年 8 ヶ月ぶり首位」
15)　1 巻は定価 6 ユーロの通常版に対して、2011年に1.95ユーロの廉価版も発売されている。表紙・裏表紙のデザインが変わった他、通常版にはなかった巻末の広告と読む方向を警告する最終ページが追加されている。

出版事情に照らし合わせると、ドイツマンガブームの立役者である『ドラゴンボール』(1997年）や『美少女戦士セーラームーン』（1998年）に続いて出版されたことが分かる。

また、マンガ版『新世紀エヴァンゲリオン』は長期連載された作品でもある。元の日本語版は1995年に1巻が発売された後、最終巻である14巻が発売されたのは2014年のことであり、完結までに19年かかった。ドイツ語版では、1999年に1巻が翻訳出版された後、途中で日本の刊行ペースに追い付き、2013年に13巻まで翻訳・出版済みである。

『新世紀エヴァンゲリオン』という作品は日本マンガブームが始まってすぐに翻訳された人気作であり、またその翻訳・出版が長期にわたった。そのためJüngst（2004, 2006）のドイツにおけるマンガ受容の影響が報告されたマンガ文化定着期を間に挟んでいる。そして、マンガ文化が定着しきった現在まで出版が続けられていることになる。またドイツ語版の翻訳・出版は長期にわたったものの、出版元、翻訳者は一貫している[16)]。

ドイツ語版『新世紀エヴァンゲリオン』の文字テクストは、文字テクストに使われているフォント種や翻訳語の選択がそれぞれの時期によって異なる[17)]。その変化からドイツのマンガブームの最初期から定着期、そして現在に至るまでの翻訳の姿勢の変遷を見ることができる。本論はその中から特に呼称表現に限って文字テクストを採取し、“-san”や“-kun”などの呼称接尾辞の出現、また父親・母親に呼びかけるときの語の選択について分析する。

４．呼称における日本語語彙使用の変遷

4.1. 両親に呼びかける際の語彙

呼称に関する日本語語彙の流入に、両親に呼びかけるときの語がある。作中の人物で、主人公・碇シンジは自分の両親に対して「父さん」、「母さん」という語を用いる。他人に前で間接的に話題に出すときは、「父」と呼ぶこともあるが、その回数は比較的少なく、呼びかけ・言及・語りといったどの場面でもほとんど「父さん」、「母さん」と呼ぶ[18)]。

この呼びかけ表現の訳語として、ドイツ語版初期では“Vater（父）”、“Mutter（母）”あるいは“Papa（パパ）”、“Mama（ママ）”という語が用いられている。後期にはこれらに代わって、“To(o)-san”、“Ka(a)-san”といった日本語の語彙がそのまま使用されるようになる。本項では、これら両親への呼称表現の翻訳の変遷を見る。

例文採取の方法としては、まずドイツ語版から呼称表現を拾い、対応する日本語版テクストを参照する。ただし本項の分析は「父さん」、「母さん」の翻訳変遷に限定するため、日本語版にこれらの語をもたない場合は対象外とする。なお、今後付する表などでは訳語選択が変化したと思われる部分のみを挙げ、連続して同じ語が使われている部分は省いた。以降、例文採取においては同じ基準で行った。

---

16)　ただし文字テクストのフォント選択や配置にかかわるレタリング担当は、1～4巻（すべて1999年）のBjörn Liebchenから以降の5～13巻（2000～2013年）はMichael Möllerへと代わっている。

17)　使用フォントについては、レタリング担当の交代などの要因で4度も変わっている。その使用フォント変更からマンガにおける文字テクストの認識の変遷を読み取ることができるが、本論では扱わない。

18)　たとえばシンジによる内言語の文字テクストにおいて、「父は…」「いったい今になってなんの用があるというのだろう」（[EJ] 1巻、15ページ）やNERV本部内で先導する葛城ミサトに向かって「(前略)まだ父の所へ着かないんですか？」（[EJ] 1巻、48ページ）など直接の呼びかけではない場面で「父」と呼んでいる。

まず初めに、主人公・碇シンジが父・碇ゲンドウを呼ぶ際の「父さん」の訳語変遷について考察する。

以降すべての表で、テクスト種は発話・内言語のどちらか、聞き手は会話の相手、備考は文字テクストの特殊な状況を示し、空欄の時は呼びかけであることを示す。また、ドイツ語版文字テクストでは、ほとんど大文字のみの表記となっているが、語頭のみ大文字表記に直した。

表 2　シンジがゲンドウを呼ぶ「父さん」の翻訳語

巻　数	ページ（独）	ページ（日）	テクスト種	聞き手	備　考	ドイツ語
1	57	59	発話	ゲンドウ		Papa
3	19	21	内言語	ゲンドウ		Vater
3	30	32	内言語			Mein Vater
3	97	99	内言語	ゲンドウ	幼少期	Papa
3	119	121	発話	レイ		Mein Vater
4	95	97	内言語			Papa
4	123	125	発話	ゲンドウ		Papa
5	67	67	発話	ゲンドウ	独白	Papa
6	20	20	内言語			Mein Vater
6	28	28	内言語			Mein Vater
6	163	163	発話	ゲンドウ		Papa
7	18	18	発話	委員長	夢	Vater
7	36	36	内言語			Vater
7	89	89	発話	加持		Mein Vater
7	112	112	発話	ゲンドウ		Vater
8	9	9	内言語			Vater
8	10	10	発話	ゲンドウ	幼少期	Papa
10	17	17	発話	ゲンドウ		To-san
12	31	31	発話	ゲンドウ		Too-san
13	125	125	内言語		独白	Too-san

まず、翻訳語の分布を見てゆく。“Papa”という語は 1 巻から 6 巻まで、特に発話の中に直接の呼びかけの表現として出現する。 4 巻や 5 巻では内言語の文字テクストの中にも現れる。また回想の中に出てくる幼少期のシンジの父親への呼称表現として“Papa”が出現している。同様に 8 巻でも幼少期のシンジが“Papa”と呼びかける文字テクストが存在する。

1 巻から 8 巻までを通して頻出するのは“Vater”である。 6 巻までは内言語に現れ、

例外的に3巻で他人の前で間接的に話題に出した際の発話内で使用がみられる。7巻と8巻では発話・内言語・対人とどの場面でも広く“Vater”が使われる。

このように8巻までは“Papa”と“Vater”が使い分けられており、場面によって翻訳語の選択が行われているということがわかる。7、8巻における2語の使い分けは、幼いころは「パパ」と幼児語で呼び、成長するにつれ「父さん」、「父」というよそゆきの呼び方に移行していくという特徴を反映していると考えられる[19]。

10巻からは翻訳語の選択肢が一変し、発話の文字テクストにおいて“To-san”という語が用いられるようになる。12巻からは“Too-san”という語へとマイナーチェンジが行われ、元の日本語版の文字テクストの「父さん」という単語に音のレベルでさらに近づけられている。13巻では内言語の文字テクストでも“Too-san”が現れ、場面に限らず使用されていることが分かる。10巻以降、“To(o)-san”以外の呼称表現は出現しない。また、この“To(o)-san”には具体的な意味を説明する注などはつけられていない。

訳語の変遷を出版年代と照らし合わせると、“Papa”を主に発話の呼びかけ・内言語・幼少期の発話に、それ以外を“Vater”に翻訳した1巻から6巻までは1999年から2000年まで、“Papa”を幼少期の発話のみに、それ以外をすべて“Vater”に翻訳した7巻から8巻までは2002年から2003年まで、使用場面に関係なくすべて“To(o)-san”と翻訳した10巻から13巻までは2006年から2013年までとなる。どのような場面でも一貫して日本語語彙をそのまま使うようになったのは2006年以降のことであり、これはJüngst（2004, 2006）が報告した内容と合致する。

次にシンジが母・ユイを呼ぶときの「母さん」という呼称表現を見る。

表3　シンジがユイを呼ぶ「母さん」の翻訳語

巻　数	ページ(独)	ページ(日)	テクスト種	聞き手	備　考	ドイツ語
1	121	123	発話			Mama
3	97	99	内言語	ユイ	幼少期	Mama
5	170	170	内言語			Mama
6	28	28	内言語			Meine Mutter
8	10	10	発話	ゲンドウ	幼少期	Mama
12	176	176	発話	エヴァ[20]		Kaa-san
13	61	61	内言語	ユイ	独白	Kaa-san

「母さん」の翻訳語選択基準は、おおむね「父さん」と同じであると考えられる。1巻から6巻までは、幼少期の呼びかけで“Mama”が、内言語では“Mutter”が使用されている。“Kaa-san”が現れるのは12巻からで、直接の呼びかけにも内言語にも“Kaa-san”

19)　現代日本語の使用に限るが、男子は「パパ」という幼児語表現から年齢を重ねるにつれ幼児性を排除した呼称表現を傾向があるというセペフリバディ（2012）の研究がある。

20)　シンジの搭乗する人型兵器「エヴァンゲリオン初号機」には、ユイの魂が宿っているという設定である。

が使われる。

シンジがユイを呼ぶ「母さん」という文字テクストは、ゲンドウを呼ぶ「父さん」に比べて数が少ない。そもそもシンジがユイを呼ぶ場面が出現する巻が少ないので、もう一例「母さん」という文字テクストが現れる関係性から考察を補強する。NERVに所属する科学者、赤木リツコがその母・赤木ナオコを呼ぶ際にも「母さん」という呼称表現を使う。

表４　リツコがナオコを呼ぶ「母さん」の翻訳語

巻　数	ページ（独）	ページ（日）	テクスト種	聞き手	備　考	ドイツ語
8	173	173	内言語		独白	Mutter
10	136	136	発話	リツコ母	回想	Ka-san
10	144	144	内言語		回想	Meine Mutter
11	25	25	発話		独白	Kaa-san
13	43	43	発話		独白	Kaa-san

リツコの「母さん」という呼称表現は、シンジがユイを呼ぶ場面のない10、11巻にも現れる。そこで特異なのは、10巻の内言語の文字テクストにおいて“Mutter”という呼称表現を使うことである。対してシンジがゲンドウを呼ぶ「父さん」という呼称表現の使用からは、日本語の語彙をそのまま使う“To-san”のみが確認できた。回想中の発話の文字テクストでは“Ka-san”を使っている。この例から、10巻では家族に対する呼称表現がすべて日本語語彙を使っているとは言えない。その呼称表現の使い分け基準は例が少ないため断言はできないが、リツコは成人女性であり、一方シンジは14歳の少年であるというキャラクターの性別・年齢の違いが影響していると考えられる。

そうした細かな違いはあるが、“Ka-san”という単語が出現するのは10巻からであり、前述した２種類の例と同じであることが分かる。さらに、11巻から“Kaa-san”の使用が現れ、元の日本語版の語彙「母さん」に音のレベルまで近づけられたのがこの11巻からであったことが新しくわかった。

「父さん」、「母さん」の翻訳語選択の変遷からは、10巻（2006年）に「父さん」、「母さん」ともに、“To-san”, “Ka-san”という翻訳語が当てられ、日本語語彙の流入が起こっていることが分かった。これらの翻訳語には意味を説明する注は付けられていない。以降、11巻にリツコが母を呼ぶ「母さん」という文字テクストに“Kaa-san”という翻訳語が当てられ、元の日本語語彙に音のレベルまで近づけられた。日本語語彙の流入とともに、それまでの文字テクストで行われていた場面による翻訳語の選択は行われず、ほとんど一貫して“To(o)-san”、“Ka(a)-san”という翻訳語が使用されることになったことがわかった。

この結果はJüngst（2004, 2006）の報告との相関関係が認められる。Jüngst（2004）では、ドイツ語版に“-san”や“-chan”の使用はあるが、意味を説明する注が付加されての使用である。さらにJüngst（2006）ではドイツでのマンガファンの間で呼称接尾辞がすでに普及しているとされている。『新世紀エヴァンゲリオン』に“To-san”、“Ka-san”が登場す

るのは2006年出版の10巻からであるから、Jüngst（2004, 2006）の指摘した通り、簡単な語彙の一部として「父さん」、「母さん」という家族を呼ぶ際の呼称表現が、ドイツ語版マンガの文字テクストとして導入されていたと考えられる。

4.2. 呼称接尾辞を使った表現

続いて呼称接尾辞の出現の変遷を見る。作中には呼称接尾辞を使った呼び方で相手を呼ぶキャラクターがいる。この呼称接尾辞を使った呼び方はドイツ語翻訳版で途中から反映される。呼称接尾辞を含まない呼び方で相手を呼ぶ表現については例文採取を行わなかった[21)]。本項ではその表現の出現が長期にわたり、かつ一定の用例が採取できる以下の 4 種類の呼称表現に絞って考察を行う。「ミサトさん」、「シンジ君」、「加持さん」、「碇くん」の 4 種類である。

1 つ目は、シンジが上司であり、同時に保護者兼同居人でもある葛城ミサトに対して呼びかける「ミサトさん」という表現について分析する。

表 5　シンジがミサトを呼ぶ「ミサトさん」の翻訳語

巻　数	ページ（独）	ページ（日）	テクスト種	聞き手	備　考	ドイツ語
1	46	48	セリフ	ミサト		Misato
2	132	134	内言語		独白	Misato
2	136	138	発話	ミサト		Misato
3	40	42	発話	ミサト		Misato
4	39	41	内言語	ミサト		Misato
5	18	18	発話	ミサト		Misato-san
5	59	59	発話	レイ		Misato-san
6	20	20	内言語			Misato-san
6	62	62	発話	ケンスケ		Misato
6	121	121	内言語	ミサト		Misato
7	30	30	発話	ミサト		Misato
8	45	45	発話	ミサト		Misato
9	61	61	発話	ミサト		Misato-san
10	90	90	発話	カヲル		Misato-san
11	165	165	発話	ミサト	独白	Misato-san
12	141	141	発話	ミサト		Misato-san
13	23	23	発話	アスカ		Misato-san
13	125	125	内言語		独白	Misato-san

21)　たとえば「エヴァンゲリオン」パイロットの惣流・アスカ・ラングレーはシンジのことをほとんどの場合「シンジ」と呼び捨てにする。これは常に“Shinji”と訳される。

1巻から4巻では、どの場面でも一貫して“Misato”が使われている。まだ“-san”という呼称接尾辞の使用は見られない。

シンジにとってミサトは15歳年上の女性であり、しかもNERVでの所属では上司に当たるが、ほとんど接触のない実の父・ゲンドウの代わりにミサトが保護者のような役割を演じていること、さらに同居していることもあってか、二人はかなり親しい間柄として描かれている。“Misato”というファーストネームを翻訳語として選択しているのは、そうした関係性を反映していると考えられる。

“-san”が使われるのは5巻からである。直接の呼びかけであっても会話の中で間接的に言及するときでも“Misato-san”という語が使われている。この呼称接尾辞“-san”についての具体的な意味を説明する注はない。

“Misato-san”は6巻の前半まで使われるが、後半からは呼称接尾辞のない“Misato”がまた使われるようになる。その状況が変化するのは9巻からで、すべての場面で“Misato-san”が使われるようになる。2014年時点で最新刊の13巻までこの語が使われ続ける。この使用に際しても、“-san”に意味を説明する注は付けられていない。

“-san”を使った翻訳語への変更は、親しい間柄とはいえ、年上の女性を呼び捨てにする状況は日本ではあまり一般的ではないという日本の文化・原テクストを反映したものであると考えられる。

6巻で呼称接尾辞のある語とない語が混在して使用されている状況について詳しく見ると、NERV本部のオペレーター・伊吹マヤがミサトを呼ぶ「葛城さん」[22]が“Katsuragi-san”[23]と呼称接尾辞ありで翻訳されている後、シンジの同級生・相田ケンスケが会話の中で間接的にミサトを呼ぶ「ミサトさん」[24]が“Misato”[25]に翻訳されているところで切り替わっている。このように一冊の中で呼称表現の翻訳語が切り替わった理由は断定できないが、「ミサトさん」という語の翻訳は6巻、60ページ以降から呼称接尾辞のない表現に戻る。呼称接尾辞のない“Misato”を使った翻訳は8巻まで続き、呼びかけ・内言語などすべてこの語で統一される。

この翻訳語選択の変遷を出版年代と照らし合わせると、“-san”が使われ始めるのは2000年（5巻）からである。しかし2001年（6巻の途中）から呼称接尾辞は使われなくなり、それが2003年（8巻）まで続く。2005年（9巻）からは再び“-san”が使われるようになり、2013年（13巻）までその傾向は変わっていない。さらにどの年代においても“-san”という呼称接尾辞が使われる際に、その意味を説明する注は付けられていない。

Jüngst（2004）では2003年の呼称接尾辞使用について報告しているが、『新世紀エヴァンゲリオン』においてはそれよりも早い2000年の段階で翻訳語に呼称接尾辞が取り入れられたことが分かる。しかし、2002年出版の6巻の途中からは“-san”のない呼称表現に戻され、その後呼称接尾辞が再び使われ、使用が定着するのは2005年からである。Jüngst（2006）に日本語の呼称接尾辞がマンガファンの間に定着したことが報告されているので、

22) ［EJ］6巻、58ページ
23) ［ED］Bd.6, S.58
24) ［EJ］6巻、60ページ
25) ［ED］Bd.6, S.60

それと同時期に『新世紀エヴァンゲリオン』の翻訳語の選択が変わったと考えられる。

次はミサトがシンジを呼ぶ際の「シンジ君」の翻訳語の選択である。ミサトにとってシンジは年下の男子であり、部下であると同時に被保護者でもあり、同居している相手でもある。

表 6　ミサトがシンジを呼ぶ「シンジ君」の翻訳語

巻　数	ページ（独）	ページ（日）	テクスト種	聞き手	備　考	ドイツ語
1	19	21	発話	シンジ	初対面	Shinji
2	12	14	発話	シンジ		Shinji
6	57	57	発話	加持		Shinji-kun
6	177	177	発話	加持		Shinji
7	14	14	発話	リツコ		Shinji
7	28	28	発話	シンジ		Shinji
8	24	24	発話	加持		Shinji
9	13	13	発話	シンジ		Shinji-kun
10	32	32	発話	シンジ		Shinji-kun
11	51	51	発話	シンジ		Shinji-kun
12	15	15	発話	青葉		Shinji-kun

呼称接尾辞の使用の分布は、ほぼ「ミサトさん」と同じである。 1 巻から 2 巻はいずれの場面でも呼称接尾辞なしの“Shinji”と呼ぶ。 6 巻の前半では“Shinji-kun”と呼称接尾辞のある呼び方を使うが、後半では“Shinji”に戻る。前半の“Shinji-kun”という呼称表現は会話の中の間接的な呼び方に使われ、後半では間接的な呼び方・直接的な呼びかけにかかわらず“Shinji”が使われている。“Shinji-kun”という呼称接尾辞を使った表現に戻るのは 9 巻である。以降13巻まで一貫して“Shinji-kun”が使われる。

また、同じくシンジを「シンジ君」と呼ぶ他のキャラクターのセリフを比較すると以下のようになる。

表 7　ミサト以外の人物がシンジを呼ぶ「シンジ君」の翻訳語

巻　数	ページ(独)	ページ(日)	テクスト種	話し手	聞き手	備　考	ドイツ語
1	49	51	発話	リツコ	シンジ	初対面	Shinji
3	93	95	発話	叔父	シンジ		Shinji
4	38	40	発話	アスカ	リツコ	猫かぶり[26]	Shinji
6	114	114	発話	マヤ	シンジ		Shinji
7	9	9	発話	日向	シンジ		Shinji
13	36	36	発話	マヤ	シンジ		Shinji-kun

例文が呼称接尾辞のない 1 巻から 6 巻までに偏っているが、発話者・場面に関係なく 6 巻までは“Shinji”で統一されており、13巻では“Shinji-kun”で翻訳されていることが分かる。

以上 2 例の分析から、『新世紀エヴァンゲリオン』において呼称接尾辞の使用には、 3 回の変更があったことが分かった。 1 巻から 4 巻まで（1999年）は呼称接尾辞の使用はなく、 5 巻（2000年）に翻訳語として呼称接尾辞が取り入れられる。しかし、 6 巻（2001年）の途中から呼称接尾辞のない呼称表現に戻され、 9 巻（2005年）以降は一貫して呼称接尾辞のある表現が使われる。

引き続き見る 2 例は、これまでの 2 例で観察された翻訳語の選択基準とは異なった基準を持って翻訳されたと考えられるものである。

その 1 つ目は、「エヴァンゲリオン」パイロットの一人である惣流・アスカ・ラングレーが、彼女の憧れの人であるNERV構成員・加持リョウジを呼ぶときに使う「加持さん」という呼称表現である。加持とアスカは 4 巻からの登場となる。

表 8　アスカが加持を呼ぶ「加持さん」の翻訳語

巻　数	ページ(独)	ページ(日)	テクスト種	聞き手	備　考	ドイツ語
4	44	46	発話	加持		Kaji
5	23	23	発話	委員長		Kaji-san
6	68	68	発話	加持		Kaji-san
8	19	19	発話	加持		Kaji
9	98	98	発話		独白	Kaji-san

おおむねこれまでの 2 例と同じ傾向の翻訳語選択が行われている。しかし「ミサトさん」、「シンジ君」が呼称接尾辞ありの表現からなしの表現に切り替わる 6 巻の60ページ以降に

[26] 前述の通り、アスカはシンジをほとんどの場合「シンジ」と呼び捨てにするが、この場面ではリツコの前で猫をかぶった話し方をしているため、「シンジ君」と呼んでいる。

も“Kaji-san”という呼称接尾辞を使った呼称表現で翻訳され続ける。以降も“-san”のある呼称表現が使われ続け、6巻の中で翻訳語の選択が一貫している。8巻では“Kaji”という呼称接尾辞のない表現になっている。

6巻の中で翻訳語の選択が呼称接尾辞のありからなしへ変更されていることは前述の2例から確かであるが、アスカの使う「加持さん」は変更が起こらず、呼称接尾辞のある“Kaji-san”が使われ続ける。このことから、6巻後半から呼称接尾辞が全面的に撤廃されたのではないことが分かる。8巻で呼称接尾辞のある表現が出てこない点はこれまでの例と同じである。

それを補強する例として、同じ6巻後半で「エヴァンゲリオン」パイロットの一人、綾波レイがクラスメイト・鈴原トウジを呼ぶ「スズハラくん」という文字テクストには“Suzuhara-kun”という呼称接尾辞を使った語が当てられている[27]。

さらに加持を呼ぶときの呼称表現について、ミサトが発話者となり加持を呼ぶ場合を参照する。ミサトは加持を「加持くん」と呼ぶ。この例では、これまでに見た用例では呼称接尾辞が取り入れられている5巻で、“Kaji”という呼称接尾辞のない語が当てられている[28]。しかし、これまでの例で呼称接尾辞を使った訳語が用いられている11巻と12巻では、“Kaji-kun”という呼称接尾辞のある表現が使われている[29]。

これらの例外的な呼称表現の選択については、キャラクター同士の関係性が影響しているのではないかと考えられる。

アスカにとって加持は憧れの年上の男性であり、ミサトにとって加持は以前付き合っていた恋人だった。アスカが加持を呼ぶとき、その年齢差と好意を向ける相手への呼びかけを反映して、6巻では“-san”という呼称接尾辞を使った表現が一貫して使われる。一方ミサトが加持を呼ぶとき、ただの同僚という関係を超えた相手への呼びかけとして、ファーストネームの呼び捨て表現を使う。さらに、レイがトウジを“Suzuhara-kun”と呼ぶ例では、クラスメイト同士ではあっても対人関係に興味のないレイはトウジと親しい関係にはなく、距離のある二人の関係性から呼称接尾辞のある呼称表現を選択したと考えられる。

このようにドイツ語版での呼称表現の選択は複雑になっている。特に5、6巻では呼称接尾辞を取り入れたばかりの段階で、その選択にずれが生じていると考えられる。

最後に、レイがシンジを呼ぶ際の「碇くん」という呼称を見る。前述したが、レイは「エヴァンゲリオン」パイロットの一人で、感情表現に乏しく対人関係にも興味を抱かない14歳の少女である。物語が進むにつれて、シンジに心を開くようになる。

---

27) ［ED］Bd.6, S.131
28) ［ED］Bd. 5巻、S.46
29) ［ED］Bd.11, S.11ページおよび［ED］Bd.12, S.160

表 9　レイがシンジを呼ぶ「碇くん」の翻訳語

巻　数	ページ(独)	ページ(日)	テクスト種	聞き手	備考	日本語[30]	ドイツ語
3	122	124	発話	シンジ		碇君	Shinji
4	18	20	発話	シンジ		碇くん	Ikari
5	35	35	発話	リツコ		碇君	Ikari
5	60	60	発話	シンジ		碇君	Shinji
7	177	177	発話	シンジ	独白	碇くん	Ikari
8	41	41	内言語			碇くん	Ikari
8	42	42	内言語		呼びかけ	碇くん	Ikari
10	36	36	内言語	シンジ		碇くん	Ikari-kun
13	96	96	発話	ゲンドウ		碇君	Ikari-kun

3 巻では“Shinji”とファーストネームで呼びかけているが、4 巻になると“Ikari”というファミリーネームを呼称接尾辞なしの表現を使うようになる。これは、日本語版の「碇くん」というファミリーネーム＋呼称接尾辞という呼称表現に近づけたとも考えられる変更である。ここから他の例では翻訳語選択の変更が起こっていない 1 巻から 4 巻の間に、一度翻訳語変更が行われていることが分かる。

5 巻でも呼称接尾辞は使用されず、これは前述したこれまでの例とは異なる。また直接の呼びかけに“Shinji”を、間接的に呼ぶときは“Ikari”という使い分けを行っている点も特徴的である。10巻と13巻では、どの場面でも呼称接尾辞のある“Ikari-kun”という表現で統一されており、これもこれまでの例と共通する。

この例で特徴的な点は 3 つある。1 つ目は、他の例では一貫した呼称表現が使われている 1 巻から 4 巻のうち、4 巻において呼称表現が変更されていること。2 つ目は、これまでの例で呼称接尾辞を使った表現が一貫して取り入れられた 5 巻で、呼称接尾辞のない語を使っていること。3 つ目は、ファーストネームとファミリーネームが翻訳語としてどちらも使われていること。しかも 4 巻では、すべて“Ikari”というファミリーネームを使った表現が使われているのに対し、5 巻では“Ikari”、“Shinji”どちらの表現も使われ、場面によって使い分けがされていることである。

ここで 4 巻と 5 巻の間で呼びかける表現が“Ikari”から“Shinji”に戻る現象を考えるとき、考慮すべきなのはやはりキャラクター同士の関係性である。例文を採取した 5 巻60ページは、シンジが学校を休んでいたレイを見舞い初めて打ち解けた雰囲気で会話するシーンである。互いに心を開いた関係性を反映して、レイが“Shinji”とファーストネームで呼びかけていると考えることができる。しかし 7 巻以降は、呼称接尾辞を用いない・一冊の中で呼称を統一するという他の例と同じ翻訳語基準にのっとって“Ikari”と呼称接尾辞はないが日本語版を反映した呼称表現を使い、10巻以降は日本語版と同じ呼称表現を使った翻訳へと変わる。

30)　呼称表現は一貫して「碇くん」だが漢字表記ゆれがみられる。

以上4種類の呼称表現例について見た。例外がいくつか見られるが、大筋の翻訳語選択基準は以下のように変遷している。

① 1巻から4巻まで：呼称接尾辞なし

② 5巻から6巻前半まで：呼称接尾辞あり

③ 6巻後半から8巻まで：呼称接尾辞なし

④ 9巻以降13巻まで：呼称接尾辞あり

このうち4巻から6巻では翻訳語選択の基準がやや揺らいでいる。例外的な翻訳はキャラクター同士の関係性を反映したと考えられる。

日本語版では、ある人物からある人物への呼称表現はほぼ一貫している。しかし、ドイツ語版では呼称接尾辞の使用がない・あるいは呼称接尾辞が流入したのを受けて、複数の呼称表現を年代によって使い分けている。

5．結論

日本語語彙の流入に関し、Jüngst（2004, 2006）の報告の前後の時期にまたがって翻訳された『新世紀エヴァンゲリオン』を分析対象として、人物の呼称表現の変遷を見た。

4章の1項では、両親に対する「父さん」、「母さん」という呼びかけの翻訳語の変遷を見た。“To(o)-san”、“Ka(a)-san”という日本語の語彙がそのまま使われるのは10巻（2006年）からであり、それまでは“Vater（父）”、“Papa（パパ）”、あるいは“Mutter（母）”、“Mama（ママ）”というドイツ語語彙で翻訳されていた。

“Vater”、“Papa”あるいは“Mutter”、“Mama”の2語の使い分け基準は6巻（2001年）を境に変更されていることが分かった。「父さん」の翻訳語では、1巻から6巻までは直接の呼びかけ・幼少期の呼びかけに“Papa”が使われ、それ以外の内言語・間接的に呼ぶ際に“Vater”が使われていた。一方7、8巻では、幼少期の呼びかけにのみ“Papa”が使われ、それ以外では“Vater”が使われていた。

「母さん」の翻訳語の使用傾向もほぼ同じであった。ただし、発話するキャラクターの年齢や性別に応じて、例外的な呼称表現がとられている場合もあった。

4章2項では呼称接尾辞を使った表現について4例を見た。“-san”、“-kun”などの呼称接尾辞を使った表現が出現するのは、5巻（2000年）からであった。2000年出版のマンガにおいて呼称接尾辞が説明なしで使用されているというこの事実は、先行研究の報告に比べかなり早い段階で日本語語彙の導入が行われたことを示す。ただし、導入時期が早すぎた影響か、次の6巻では途中から呼称接尾辞を使った表現がほとんどなくなり、8巻（2003年）まで使用されなくなる。安定して呼称接尾辞が使用されるのは9巻（2005年）以降であった。

さらに翻訳例によっては、ファミリーネーム・ファーストネームが使い分けられているのが観察できた。この使い分けはキャラクター同士の関係性が反映されているものと考えられる。呼称接尾辞が日本語語彙から流入した5巻以降では、呼称表現の語の選択肢が増え、より複雑な選択基準となっている。

以上2種の呼称表現における翻訳語選択と、特に日本語語彙の流入を見た。呼称接尾辞の使用は2000年からと早いが、その後2005年以降安定して使用されるまでは翻訳語選択に

揺らぎがある。家族に対する呼称表現は、2006年から日本語語彙を用いて翻訳され、以降一貫して“To（o）-san”、“Ka（a）-san”が使われる。

また、日本語語彙を使った翻訳語が使用されるようになる一方で、その日本語語彙を使用した表現を含め、どの語を使って翻訳するかの基準が何度も変更されていることが分かった。翻訳語選択基準には、場面や発話するキャラクターの人物像、また呼びかける相手との関連性を反映していることも明らかになった。

今回の分析では長期にわたって翻訳・出版された『新世紀エヴァンゲリオン』という一作品を通して、マンガ文字テクストにおける呼称表現の変遷を分析した。そこから、年代が下るにしたがって、原作の表現重視、つまり日本語語彙をそのまま翻訳語として採用する傾向があり、ドイツ語版マンガ読者に日本語語彙が広く認知されるようになったことが推定できる。ドイツにおける日本マンガのブームから始まり、語彙・文化などが読者に広く認知された定着期を経て、現在は単なる物珍しさを超えてより深い受容が起こっていると考えられる。そのドイツでのマンガ受容の様子が、呼称表現における日本語語彙の導入の変遷から浮かび上がってきている[31)]。

参考文献

Balzer（2004）：Balzer, Jens（transl. Hirofumi Hosokawa）（2004），「ドイツにおけるマンガの行方――経済・文化・表現の側面から」，『マンガ研究』1、74−83

JETRO（2006）：JETRO（2006）「ドイツにおける日本マンガ市場の実態」、http://www.jetro.go.jp/jfile/report/05001277/05001277_002_BUP_0.pdf（参照 2014/12/26）

Jüngst（2004）：Jüngst, Heike（2004）. “Japanese Comics in Germany,” Perspectives: Studies in Translatology, 12:2, 83−105

Jüngst（2006）：Jüngst, Heike（2007）. ”Manga in Germany – From Translation to Simulacrum,” Perspectives: Studies in Translatology, 14: 4, 238−259

［ED］：Sadamoto, Yoshiyuki/KHARA・GAINAX（1999−2013）. NEON GENESIS EVANGELION, Übersetzer: Ante Bockel, 13Bde, CARLSEN（1 巻から 12 巻までは GAINAX 単独、13 巻は GAINAX とカラー共同原案）

ORICONSTYLE（2014）：ORICONSTYLE（2014/11/27）「【オリコン】エヴァ、最終巻で有終の美 4 年 8ヶ月ぶり首位」http://www.oricon.co.jp/news/2045069/full/（参照 2014/12/26）

明木茂夫（1999）「漫画を翻訳する苦労――中国語版『エヴァンゲリオン』に見る実例」『東方』223、2−5

瓜生吉則（1998）「＜マンガ論＞の系譜学」『東京大学社会情報研究所紀要』56、135−153

ウンサーシュッツ（2010）：ウンサーシュッツ・ジャンカーラ（2010）「人気マンガのコーパスで見る文字表現の分類について」『日本マンガ学会第 10 回大会プログラム・発表要旨集』、京都

ウンサーシュッツ・ジャンカーラ（2011）「マンガにおける文字表現の視覚的区別とその役割について」『日本マンガ学会第 11 回大会プログラム・発表要旨集』、高知

ウンサーシュッツ・ジャンカーラ（2012）「書き言葉として見るマンガとその表記上の特徴」『日本マンガ学会第 12 回大会プログラム・発表要旨集』、東京

岡本克人（1991）「日仏漫画の対照言語学的研究―オノマトペを中心に」『高知大学学術研究報告　人文科学』40、23−39

日本経済新聞（2012）：小野田弥恵・小川たまか・林健太（2012/12/24）「世代を超えた人気　エヴァンゲリオン現象の不思議　日経エンタテインメント！」、日本経済新聞、

---

31) ドイツにおける日本サブカルチャー分析の変容というテーマから呼称表現の翻訳を考えた時、膨大な翻訳マンガの他作品との比較、アニメやインターネットなど・マンガ雑誌や日本サブカルチャー雑誌などが主になると思われるマンガ読者の日本語語彙・文化知識の認知の広がりに貢献する媒体の分布など分析観点は他にもある。しかし本論では『新世紀エヴァンゲリオン』一作の中での経年変容に的を絞った分析を行い、その目的は達成されたものと考え、他分析観点は今後の課題としたい。

http://www.nikkei.com/article/DGXNASFK1803Q_Y2A211C1000000/?df=3（参照 2014/12/26）
樫村（2002）：樫村愛子（2002）「『エヴァンゲリオン』の文化分析」『愛知大学国際コミュニケーション学会』8、15−22
経済産業省（2014）：経済産業省（2014/12）「クールジャパン政策について」、
http://www.meti.go.jp/policy/mono_info_service/mono/creative/141211CJseisakunituiteDecember.pdf
（参照 2014/12/30）
［EJ］：貞本義行（原案：GAINAX、カラー）（1995−2012）『新世紀エヴァンゲリオン』1−13 巻、角川書店（1 巻から 12 巻までは GAINAX 単独、13 巻は GAINAX とカラー共同原案）
重吉知美（2003）「マンガ論の系譜と社会学的マンガ研究の可能性」『社会学研究科年報』10、147−158
セペフリバディ（2012）：セペフリバディ・アザム（2012）「現代日本語における家族に呼びかける際の呼称表現：世代差と性差を中心に」『一橋日本語教育研究』1、61−72
細川裕史（2003）「マンガを読む言語学――文字と絵画の境界線を往く――」『独逸文学』47、429−438
細川（2013）：細川裕史（2013）「ドイツにおける日本マンガの受容について――マンガ・ブームとその終焉」『ドイツ研究』47、185−191
諸岡（2010a）：諸岡知徳（2010）「コマの中のオノマトペ――マンガ表現論（2）」『江南女子大学研究紀要. 文学・文化編』47、15−24
諸岡（2010b）：諸岡知徳（2010）「マンガのことば――マンガ表現論」『甲南大学研究紀要. 文学・文化編』46、29−40